

作例のポイント

Case Study Points



「HTML&CSS コーディング・プラクティスブック 6」の作例におけるポイントや使用するテクニックなどについてまとめましたので、参考にしてください。

総括

今回のデザインカンプは 12 分割のグリッドで作成されています。IE 対応も不要なため、コーディングでも CSS グリッドを使って 12 分割のグリッドを作成し、レイアウトしていきます。それにより、「グリッドの何列分を使って配置するか」を指定するだけでレイアウトできるためです。

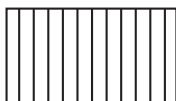
ただし、設定をシンプルに管理し、拡張性も確保した形でグリッドを活用することがポイントとなります。



デザインカンプのグリッド。

12分割グリッドを作成する

CSS グリッドで 12 分割のグリッド（モバイルでは4分割のグリッド）を作成し、必要な箇所に適用して活用します。



12 Grid

12分割グリッド



Chromeのデベロッパーズツールでグリッドの構造を表示したもの。

クラス名でカラムレイアウトのカラム数を切り替える

指示書に「必要に応じてカラム数を変更できるようにする」とあるため、クラス名によってカラム数が切り替わるようにしています。



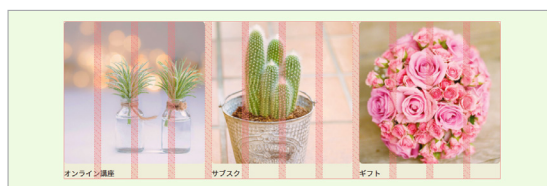
1カラム (クラス名なし)



4カラム
cols-pc4



2カラム cols-mob2



3カラム
cols-pc3



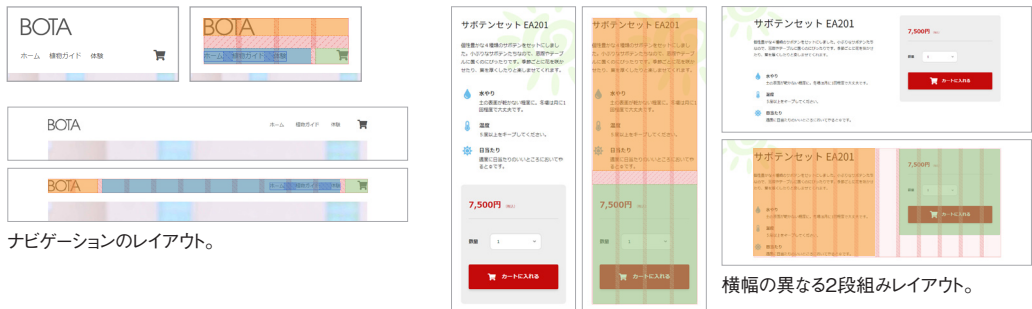
2カラム
(1つ目の項目のみ1カラム)
cols-mob2 & cols-pc3



2カラム
cols-pc2

さまざまなレイアウトに柔軟に対応する

等分割なカラムレイアウトだけでなく、12 分割グリッドはさまざまな構造のレイアウトに使用しています。



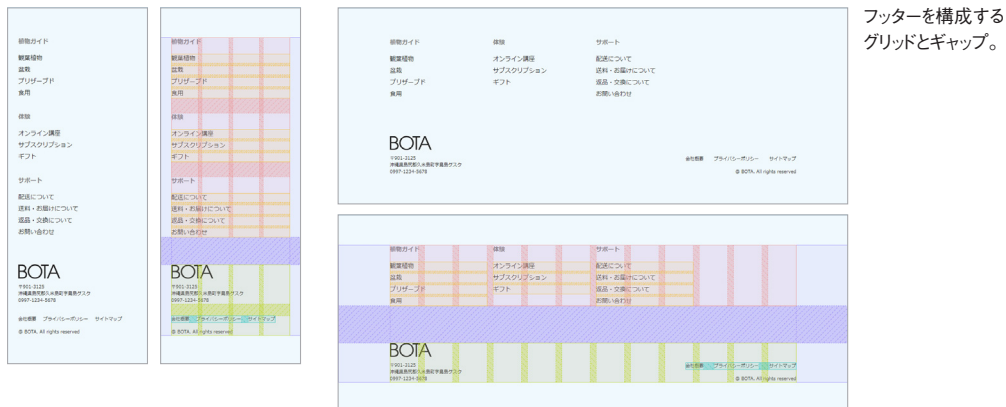
左右の余白と横幅もグリッドで整える

左右の余白と横幅は、12 分割グリッドとは別なグリッドを作って整えます。ここでは「パーツグリッド」と呼ぶ 3 列のグリッドで調整しています。



マージンやパディングの使用は必要最小限にする

12 分割グリッドとパーツグリッドを組み合わせると、余白の多くはグリッドのギャップで調整できます。そのため、マージンやパディングでの調整は必要最小限にしています。



階層構造を把握する

今回は見出しやリストが多く、必然的に文書構造の階層も深くなります。そのため、階層構造をきちんと把握し、適切なレベルでの見出しのマークアップや、最適な階層でのグリッドの利用などがポイントとなります。



トップページの文書構造(見出しレベルと構造的アウトライン)。

ページによってデザインを変える

ヘッダーはページによってデザインを変えるため、ページを区別するクラス名を用意してCSSを適用しています。

トップページの
ヘッダー



ナビゲーションを青色で表示。

ヘッダー画像と
キャッチコピーを表示。

コンテンツページの
ヘッダー



ナビゲーションをグレーで表示。

ディバイダーを表示する

ヘッダー画像にはディバイダーを重ね、下部を波形にカットした表示にします。ディバイダーの設定は指示書に書かれたツールを利用して作成したものを利用しています。



装飾画像を表示する

装飾画像は疑似要素として表示しますが、画面の端に対してではなく、コンテンツに対して表示位置を固定し、レスポンスに対応しています。

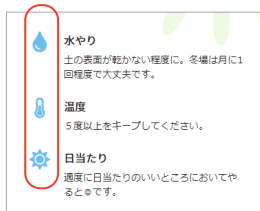


装飾画像。



Font Awesomeを使ってアイコンを表示する

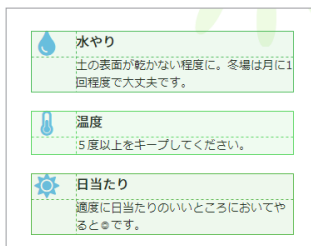
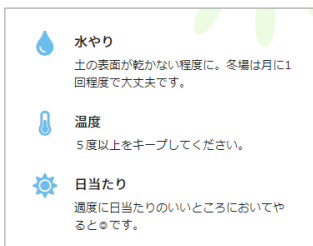
指示書に従い、アイコンは Font Awesome を使ってアイコンフォントとして表示し、色やサイズを調整しています。



アイコンを使用した箇所の表示。

アイコンの下にテキストが入り込まないようにする

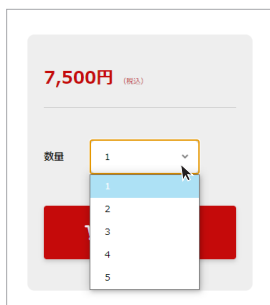
アイコンの下にテキストが入り込むのを防ぐため、リストはグリッドを使ってレイアウトしています。



リストにアイコンをつけてレイアウトした箇所とグリッドの構造。

注文フォームのデザインを整える

フォームはプルダウン型の選択肢と、「カートに入れる」ボタンで構成します。選択肢は角丸の形状に整え、ボタンにはアイコンをつけて仕上げています。



注文フォームの表示。